

令和元年度 学校評価報告書

4段階評価【4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する】

都城市立高城中学校

具体的な取組	項目	自己評価		自己評価に対する学校の分析・考察	学校関係者評価	学校運営協議会委員からのコメント
		項目別	取組別			
学力の向上	① 学習のめあてを把握して授業に取り組み、学習内容のふり返りを行わせることによって、学習内容を理解する力を高める。	3.0	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師は期待通りとする評価に対して、生徒・保護者の25%は期待を下回る評価であった。 ○ 授業では、めあてと振り返りのカードをしっかりと使用することで、多くの生徒がよく学習に取り組んでいた。徐々にではあるが、成果は上がってきている。 ○ 学力差が大きいので、遅れがちな生徒の学習意欲を高め、理解力を向上させる指導の工夫・改善が必要である。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、先生方が工夫しながら指導に努められているのは重々理解している。しかし、この項目を評価するには、4月と12月の数値がなければ変容を判断できない。また、通塾生の割合を把握し、分析する必要がある。 ・ 読書した本を要約して書かせたり、スピーチさせたりすることも読解力の向上につながる。 ・ 「確かな学力」の向上については生きる力を育むというとらえ方で構想することが大切である。授業改善の視点が不明確だったり、一方的な講義形式だったりしてはいけない。指導形態の工夫や体験的な学習、問題解決的な学習等の指導過程の工夫で、「楽しくも分かる授業」の創造をお願いしたい。 ・ 心配していた1年生の授業態度が落ち着きを取り戻し、予想以上によくなってきている。 ・ 1年次からそれぞれの目標を掲げ、その目標に向けて2年次、3年次と取り組んでいる様子が教室の掲示物により伺える。非常にいいことだと思う。
	② 学習課題に対して時間をかけて思考し、深い学びを追究させる。	2.8		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師・生徒・保護者の50%程がほぼ期待通りとする評価であった。また、生徒・保護者の20%程は期待以上とする評価であった。 ○ 生徒は学習課題に真剣に取り組んでいるが、教師の指示や手助けがないとできない生徒が多い。自分で課題解決の手順や効率を考えて学習を進めていけるように指導する必要がある。 		
	③ 読書活動の推進により、読解力の向上を図る。	2.9		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の50%程が期待以上とする評価を、教師の70%程がほぼ期待通りとする評価であった。しかし、保護者の50%は期待を下回るとする評価であった。 ○ 朝の読書活動等で図書室の貸出冊数が増え、学校での読書が定着しつつある。今後、各教科における読解力の向上につながるような取組が必要である。 		
心豊かな生徒の育成	④ 自分のことを大切に思うとともに、相手の立場に立った言動を身に付けさせる。	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒・保護者の90%程が期待通りとする評価であったが、教師の30%程はやや期待を下回るとする評価であった。 ○ できている生徒は多いが、個人差が大きい。言葉遣いや礼儀面など、気になることはその都度指導している。 ○ 家庭への啓発とともに、学校と家庭が連携した取組が必要である。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を大切にできないと他人を想うことは難しいと思う。これを言葉だけで指導するのは難しく、映像資料の活用も効果的であると思う。 ・ 登下校時のあいさつは、小学生より中学生の方が気持ちよく実践しており、休日の部活動帰りの生徒たちも進んで実践している。素晴らしいと思う。 ・ 全校生徒が明るく学校生活を送っている。あいさつについてもしっかりと相手を見て行われている。学校訪問等で気持ちよく来校できた。 ・ 部活動をしている時など校内でのあいさつはよく出来ているが、校外では生徒から進んであいさつをされることは少ない。 ・ 生徒達を取り巻く環境の変化を踏まえ、様々な体験活動を通して、家庭や地域が協力して調和のとれた人間性や社会性を育む教育を推進する必要がある。 ・ 自分の考えをしっかりと主張できる生徒もいれば、苦手な生徒もいる。生徒・教師の相対関係から生徒・地域の関係を築き、少人数の生徒グループと地域住民による課題解決などのグループコミュニケーションを通じて自己表現の方法について誘導する等についても検討していく必要がある。 ・ 大人に対する態度は、学校と家庭ではギャップが感じられる。今は、携帯端末の普及で家庭での会話が減り、保護者が躰を行う機会が減ってきていると思われる。
	⑤ あいさつがしっかりとでき、社会生活で大切な礼儀を身に付けさせる。	3.4		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師・生徒・保護者の90%程が期待通りとする評価であった。 ○ 校内でのあいさつはよくできるようになり、自分からできる生徒も多くなってきた。しかし、なかなかできない生徒もおり、小・中学校で一貫した心の教育が必要である。 		
	⑥ 道徳の授業や全教育活動によって人を思いやる心を育成する。	3.3		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒・保護者の90%以上が期待通りとする評価であったが、教師の20%程はやや期待を下回るとする評価であった。 ○ 生徒の中に相手の気持ちを考えない言動が多少見られる。校内での礼儀や言葉遣いなどで好ましくない状況があり、生徒間でトラブルが起きている。道徳教育の研修を深めながら生徒が意欲的に授業の中で考え、人を思いやる心を育てる必要がある。 		

具体的な 取組	項目	自己評価		自己評価に対する学校の分析・考察	学校関係者 評価	学校運営協議会委員からのコメント
		項目別	取組別			
保健安全指導の推進	⑦ 安全教育や防災教育に意欲的に取り組ませる。	3.2	3.2	○ 生徒の 90%程が期待通りとする評価であったが、教師・保護者の 20%前後はやや期待を下回るとする評価であった。 ○ 地域防災に興味関心をもたせ、中学生の役割を整理する必要がある。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの防災研修に参加した生徒は積極的で意欲向上が見られた。 高齢化が進む地域の中で、いざという時に中学生には即戦力になれるよう「安全教育・防災教育」の取組をもっと地域・行政等と連携できるように、教育委員会からの働きかけが必要である。 実際に災害が発生した時は、中学生が自主的に動くのは難しい。地域の防災リーダーである消防団が出す指示に中学生が従って動くことが賢明である。 地域防災に対する取組が弱い。防災教育は自然現象への理解を深め、社会・経済構造への洞察力を養い、人間相互関係の知恵を得られるなど、教科学習とは異なる総合学習の面をもっている。今後、地域や専門家の意見を聞きながら積極的に進めてもらいたい。 地球温暖化の進む現状の中で予期せぬことが起こり、生徒達もいざというとき何をどうすればよいか考える機会となった。 食育に関しては、アスリートの方に直接指導してもらう機会を設ければ理解が深まると思う。 今季は、早くからインフルエンザが流行したが、学級閉鎖などには至らずに良かった。 全体的にクラブ活動への参加が少ない。幅広く全生徒が取り組める対策を望みたい。
	⑧ 弁当の日や給食指導を通して、食育に興味・関心をもたせる。	3.2		○ 教師・生徒の 90%程が期待通りとする評価であったが、保護者の 20%程がやや期待を下回るとする評価であった。 ○ 昼の放送や給食だより等で食育への興味・関心を高めるようにした。今後も各通信や学級懇談等で家庭への啓発を図る必要がある。		
	⑨ 個々の能力に応じて、健康でたくましい身体づくりに努めさせる。	3.2		○ 教師・生徒の 80%程、保護者の 90%程が期待通りとする評価であった。 ○ 日頃からうがい手洗いを意識的にを行い、部活動生はよく活動していた。しかし、軽微な怪我や生活リズムの乱れから体調不良を訴える生徒もおり、自己管理能力を高めさせる必要がある。		
家庭、地域との連携	⑩ 学校運営協議会との連携や地域人材の活用を図る。	3.1	2.9	○ 教師・生徒の 80%程、保護者の 75%程が期待通りとする評価であった。 ○ 学校運営協議会委員が授業や行事を参観され、学校の教育活動を客観的な立場で評価や助言をいただいた。また、地域人材を活用した災害ボランティア研修を行うなど連携がよく図られていた。今後は、積極的に職員との交流や保護者への周知に取り組む必要がある。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 「公民館長と地区の生徒達との交流会」の開催は、学校側と生徒が地域活動と密接に結びつく良い機会になった。今後さらに深く議論を交わしながら中学生が主体的に地域を盛り上げていけることを期待したい。また、中学校での交流だけでなく、地域の中で地域の方々と親子で進んで交流ができるように地域でも協議していきたい。 高城町は他町に比べ、祭り(イベント)がたくさんあるので、生徒たちにもボランティアではなく、祭りの中心となって参加をしてほしい。 保護者の理解や協力の方が無いように思われる。親子で参加できるイベントがあると良いと思う。大人の方からの取組みも必要である。 家庭・地域と学校をつなぐ高城中通信は学校生活を知る上で貴重な情報源であった。学校の一生懸命な取組の姿勢が伝わってきた。更なる充実を期待したい。家庭・地域を巻き込み、教育力の向上に大いに寄与していると信ずる。 地域のボランティア活動や夏休みの防災研修、11月の町文化祭に積極的に参加し、活動している様子は高く評価したい。 生徒だけでなく、保護者や地域の大人も郷土愛をもつことが大切である。
	⑪ 地域の各団体との連携によって、ふるさと高城への貢献を図る。	2.9		○ 教師の 80%程が期待通りとする評価であったが、生徒・保護者の 30%程が期待を下回るとする評価であった。 ○ 生徒は地区ごとの廃品回収や文化・芸術フェスティバルに参加し、福祉まつり等のボランティアなど取り組んでいた。学校通信等でその様子を伝えてきたが、さらに、生徒や保護者に周知を図る工夫が必要である。		
	⑫ 生徒を地域の行事に積極的に参加させる。	2.8		○ 教師の 90%程が期待通りとする評価であったが、生徒・保護者の 30%程が期待を下回るとする評価であった。 ○ 地区公民館長と生徒の交流会を企画するなどして地域行事への積極的な参加を促した。その成果が少しずつ見られるようになったが、特に1・2年生は部活動の関係で参加が難しかった。今後は部活動単位でも参加できるように、日程などを早めに知らせていく必要がある。		